

## 「全鍍連」 2020年 2月号 巻頭言

全鍍連 技術委員長 小林 明洋 (株)小林工業所 代表取締役社長)

「めっきの力」



余寒厳しき折から皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は全鍍連の運営に多大のご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。昨年の5月より技術委員長を拝命しております小林明洋でございます。

米中貿易摩擦の激化は世界経済の混迷の一因となり、自国優先を主張する保護主義の台頭は、自由貿易体制の秩序を揺るがす懸念を招いています。また、米国とイランの対立問題から世界情勢の先行には不透明感があります。このような状況から世界経済に減速傾向が見られる昨今ではありますが、内需活性化への取り組みによって経済再生の転機になればと期待しています。昨年発刊されたものづくり白書 2019 では、ITを活用した中小零細製造業の進むべき方向性が打ち出されました。近年AIやIoTの活用でものづくりの知能化が加速しており、従来の製造業の在り方が大きく変わろうとしています。我が国のめっき業界も、従来からの高い技術に加えてAI技術の導入を促進し、日本のものづくりを根幹から支える基盤産業の一翼を担っていく必要があります。

一方で、基礎技術力の向上も我が業界にとって非常に重要であると感じています。全鍍連の事業活動の1つに、全国めっき技術コンクールの開催があります。このコンクールでは、電気めっき技術の向上と研究意欲の増進を図り、もって我が国電気めっき産業の健全な発展に寄与することを目的としています。年々出展されるめっき製品の仕上がり外観が向上して、審査員泣かせの製品が増えてきたために、より技術力を試すために採点基準の変更を検討する等の改善策が必要だと感じています。今年も更にハイレベルな製品がコンクールに出展され、それが我が業界全体の技術力の向上に繋がることを願っています。

今後もより一層我々の業界を取り巻く環境の変化が激しくなる時代が予想されますが、重要な基盤技術であるめっきの力を以って、日本の製造業のものづくりの発展に貢献していければと思います。